

自治体と連携した検査モデルの構築と効果分析に関する研究

<福岡県での検査モデル構築に向けた検討>

研究分担者 今村顕史 (がん・感染症センター都立駒込病院)

研究協力者 古賀康雅 (福岡市博多区保健福祉センター)、本間隆之 (山梨県立大学)、土屋菜歩 (東北大学 東北メディカル・メガバンク機構)、山本政弘 (国立病院機構九州医療センター)、佐野正 (福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課)、石井美栄 (福岡市保健福祉局)、田中雅人、町田沙織 (福岡市博多区保健福祉センター)、牧園祐也 (特定法非営利活動法人 Rainbow Soup)、笠松亜由、工藤由佳、鄭瑞雄、堅多敦子 (東京都立駒込病院)

研究要旨

福岡県では、HIV 感染症は AIDS 発症後に発見される割合が高く、また HIV と梅毒の感染者数は両者ともに増加傾向を認めている。一方、近年、保健所での検査数は減少傾向にあり、単純な検査数の数的増加(量)ではなく、検査の質(陽性率)を高めるような取り組みが求められている。これまで対象者に十分に届かなかった HIV 受検勧奨をより効果的に行うべく、関東や関西などの地域とは異なる地域特性やニーズを考慮し、地域の状況に応じた長期的な戦略をもった検査体制の構築が必要と考えられた。

本研究では、まず福岡市の HIV 検査体制における現状分析を行い、より質の高い検査体制を整備していくことを目指している。また先行研究では、年齢層の高い MSM や外国籍 MSM に対し受検勧奨が届きにくいという課題や、九州内での MSM のツーリズムを意識した受検勧奨が必要である事などが指摘されており、これらの課題・ニーズに応じた検査モデルを検討した。

福岡市における現状分析を行うとともに、これまで受検勧奨が十分に届かなかった対象者への受検勧奨に関する検討として MSM を対象とした特例検査、外国籍 MSM の受検アクセス向上に対する取り組みとして外国人も対象に含めた特例検査、福岡県が例年実施している県内保健所のエイズ担当者向けエイズ検査相談研修会に参画し、外国人対応における「やさしい日本語」をテーマにロールプレイを実施した。

これらにより、以前から指摘されていた「年齢層の高い MSM や外国籍 MSM に対する受検勧奨が届きにくい」という福岡市の課題を再認識することができ、今後、検査体制の「質」の向上を目指すために、地域特性など丁寧な現状分析を踏まえ、効果的・効率的な受検勧奨方法を模索し、長期的な戦略を持った検査体制の構築を進めていく。

A. 研究目的

福岡県では、HIV 感染症は AIDS 発症後に発見される割合が高く、また HIV と梅毒の感染者数は両者ともに増加傾向を認めている。先行研究では九州・沖縄地方における HIV 診断率は 70% 以下と推計され、UNAIDS が目標に掲げている HIV 診断率 90% を大きく下回っていることが指摘されている。また、HIV 治療薬が大きく進歩し、医療費助成制度も確保された現在の日本において、関東や関西などの地域では HIV 新規感染者数が減少傾向にある一方で、九州・沖縄地方は未だに HIV 新規感染者数が増加しており、HIV 感染拡大防止のために早急な対応が必要であった。

近年、保健所での検査数は減少傾向にあり、単純な検査数の数的増加（量）ではなく、検査の質（陽性率）を高めるような取り組みが求められている。これまで対象者に十分に届かなかった HIV 受検勧奨をより効果的に行うべく、関東や関西などの地域とは異なる地域特性やニーズを考慮し、地域の状況に応じた長期的な戦略をもった検査体制の構築が必要と考えられた。

本研究では、まず福岡市の HIV 検査体制における現状分析を行い、より質の高い検査体制を整備していくことを目指している。また先行研究では、年齢層の高い MSM や外国籍 MSM に対し受検勧奨が届きにくいという課題や、九州内での MSM のツーリズムを意識した受検勧奨が必要である事などが指摘されており、これらの課題・ニーズに応じた検査モデルを検討した。

B. 研究方法

<福岡市における現状分析>

福岡市における現状分析として、まず福岡市博多保健所が定例的に行っている HIV 検査（以下、定例検査）の受検者層を把握するため、年齢、性別、居住地、国籍、性的指向、受検歴、性行動などについて、無記名自記式アンケート調査を行った。検査 ID と紐付けられたアンケートは受付後の待ち時間に記入して頂き、問診の際に全て回収

した。ハイリスク行為については「性交渉の相手が不特定または過去 6 ヶ月間で相手が 6 人以上」、「アナルセックス時にコンドームを使用していない」という基準で集計した。また先行研究において、保健所での HIV 検査の質的な評価指標の一つとして、HIV 検査陽性率だけでなく梅毒の既往感染率が有用である事が示されており、梅毒検査陽性率についても調査を行った。

<これまで受検勧奨が十分に届かなかった対象者への受検勧奨に関する検討>

1. MSM を対象とした特例検査

MSM への新たな受検勧奨のツールとして、出会い系アプリ「9monsters」による広報を九州地方の利用者に向けて実施し、その他 Twitter やイベント「九州レインボープライド」における広報物の配布等を行った。2019 年 11 月 4 日に検査会場は博多保健所とし、HIV および梅毒即日検査を実施した。広報毎のアクセス数および受検者数の集計を行い、定例検査と同様の無記名自記式アンケート調査を行った。これらのデータをもとに受検者属性や検査陽性率において定例検査と比較検討を行った。

2. 外国籍 MSM の受検アクセス向上に対する取り組み

エイズデーのイベントとして、外国人も対象に含めた特例検査（2019 年 12 月 1 日）を試行し、外国人対応における課題を抽出した。検査会場は中央保健所とし、HIV および梅毒即日検査を実施した。外国人向けの情報誌「Fukuoka Now」での広報（4 カ国語）を実施し、検査会場に通訳を配置し、外国人受検者に対してインタビューを行った。

また、福岡県が例年実施しているエイズ検査相談研修会に参画し、外国人対応における「やさしい日本語」をテーマにロールプレイを実施した。参加者は県内の保健所のエイズ対策担当者とし、日本語による問診から結果説明までの対応について 3 人 1 組（受検者役、説明者役、観察者役）

でロールプレイを行い、グループ内だけでなく講師陣からのフィードバックを行った。その後、外国人留学生を受検者役とし、同様にロールプレイを実施し、外国籍 MSM の受検アクセスの向上に向けた課題を抽出した。

これらの検査会や研修会は、自治体と研究班が連携して実施したものである。

(倫理面への配慮)

福岡市で実施している HIV・梅毒検査は無料・匿名検査であり、公開データには個人情報掲載されておらず、個人情報を取り扱う倫理面への配慮を必要としなかった。

C. 研究結果

<福岡市における現状分析>

2019年4月～12月に博多保健所で実施された定例検査における HIV 検査件数は753件であった。回答率は設問により異なるものの、性的指向の設問では92.3%（回答有り695件）と保たれていた。

定例検査の受検者の基本的な属性は表1の通りであった。MSM 受検者は91名（12.3%）であり、その内訳として20～30歳代の MSM が大部分を占めており、比較的高齢の MSM（特に50歳以上）は顕著に少なかった（表2）。MSM 受検者の受検行動や性行動については表3の結果となった。定例検査の受検者全体における HIV 検査陽性率は0.5%であり、梅毒 TP 陽性率は5.2%であった。また MSM 受検者における HIV 検査陽性率は3.3%、梅毒 TP 陽性率は15.9%であった（表4）。

<これまで受検勧奨が十分に届かなかった対象者への受検勧奨に関する検討>

1. MSM を対象とした特例検査

前述の受検者属性や検査陽性率について、定例検査との比較を行った（表4）。広報別におけるアクセス数および受検者数において、9monsters はアクセス数71件に対し受検者7名、Twitter

はアクセス数528件に対して受検者5名であった。その他、受検のきっかけとなった広報について解析を試みたが重複しているケースもあり、評価は困難であった。定員50名に対し、受検者数は22名と少なかったものの、受検者は全員 MSM であり、定例検査約2ヶ月分に相当する MSM 受検者数が得られた。また受検者の属性としては、市外居住者の受検者割合がやや高く、性行動としてアナルセックス時のコンドーム不使用者の割合が高かった。

2. 外国籍 MSM の受検アクセス向上に対する取り組み

前述と同様に定例検査との比較を行った（表4）。受検者数は合計53名であり、その内外国人受検者は3名、その内1名が MSM であった。その1名の外国籍 MSM（市外在住）にインタビューを実施し、「自身が所属するコミュニティ内では保健所で無料・匿名検査を実施している事は全く知られていない。検査を受ける必要性は理解しており医療機関で受検しているが費用がかかり、受検する事も大変である。」という意見があった。

12月20日に実施したエイズ相談研修会には19名のエイズ対策担当者が参加し、各施設における現状や課題の情報交換を行った。

D. 考察

<福岡市における現状分析>

表4のとおり博多保健所における現状把握を行う事により、以前から指摘されていた「年齢層の高い MSM や外国籍 MSM に対する受検勧奨が届きにくい」という福岡市の課題を再認識し、今後のエイズ対策事業の評価項目の一つとして活用していく事が可能となった。また福岡の現状に応じた長期的な戦略をもった検査体制の構築を目指す上で、保健所検査を利用する MSM の集団的特徴を把握する必要性があった。受検行動やハイリスク行為の有無、梅毒既往感染率などの経時的変化を追っていくことで、MSM へのハイリスクアプローチの評価指標になり得ると考え

られ、今後展開していく新たな受検勧奨モデルの評価に必要なベースラインとした。

保健所毎に受検者層の差異があると考えられ、次年度以降は福岡市内の他の保健所においても同様の調査を行い、地域特性を踏まえた効果的・効率的な受検勧奨モデルの検討が必要であると考えられた。

福岡市ではこれまで検査件数や陽性者数など「量」の増加を目標としており、受検者層の把握や評価は困難であった。丁寧な現状分析を踏まえて、今後の福岡における検査体制の「質」の向上を目指す。

＜これまで受検勧奨が十分に届かなかった対象者への受検勧奨に関する検討＞

1. MSM を対象とした特例検査

受検者数は 22 名と定員 50 名には到達しなかったものの、当日の受検者は全員 MSM であり、博多保健所で行っている定例検査の約 2 ヶ月分に相当する MSM 受検者となり、エイズ対策におけるハイリスクアプローチとして効果的・効率的なものだと考えられた。また MSM 受検者のアナルセックス時におけるコンドーム使用率が低いという集団的特徴を有しており、今後の検査モデルの構築に向けて参考となる貴重なデータが得られた。今後も同様な取り組みを継続し、データを積み上げていく必要性が考えられた。

その一方で、今回の検査モデルにおける比較的高齢の MSM 受検者数は 0 人であり、受検勧奨方法の改善ないしは再検討が必要である。福岡の地域特性に応じた効果的な受検勧奨を目指して、コミュニティセンターと今後の対応策を模索する必要がある。

2. 外国籍 MSM の受検アクセス向上に対する取り組み

近年日本では外国人入国者数が増加しており、その国籍・言語も多様化している。福岡市でも同様の傾向にあるものの、これまでエイズ対策における外国人受検者数の推移などの把握を行って

おらず、外国人受検者数が増加しているという印象も感じられなかった。以前から外国語版の検査申込書やパンフレット、電話による通訳体制は確保されていたものの、実際の外国人対応における現場の課題などは全く不明であり、担当者個人の力量に委ねられていた。表 2 のとおり博多保健所の定例検査における外国籍 MSM 受検者数は 0 人であり、極めて高い受検ハードルが存在していると考えられた。

12 月 1 日の特例検査における外国籍 MSM 受検者へのインタビュー結果より、外国人に対する広報不足といった課題が明らかになった。12 月 20 日に実施した検査相談研修会においては、各施設において言語翻訳ツールなども準備されているが、実際に使用した経験も乏しく、実際に外国人受検者が来所されたときに使用できるか分からないという現状も伺えた。言語翻訳ツールも万能ではなく、翻訳のために簡単な日本語を使用する必要があり「やさしい日本語」をテーマにロールプレイを実施したが、事前準備なくして対応は困難な状況が伺えた。またロールプレイに受検者役として参加した外国人留学生から、言語翻訳ツールだけのコミュニケーションは難しく、図・表などでビジュアル化した上で説明することが重要であるという意見も挙がった。保健所における HIV 検査相談においては、よく使われるフレーズや質問などが存在するため、まずは「やさしい日本語」での説明資料の準備を行い、補助的に言語翻訳ツールを用いて受検者とのコミュニケーションを図る必要がある。また外国人 MSM に対する効果的な受検勧奨の方法について、引き続き受検者へのインタビューを実施しつつ、新たな検査モデルを試行しつつ、その結果を丁寧に分析する必要がある。エイズは三大感染症の一つであり世界各国が協力して取り組みを推進していかなければならない感染症であるため、日本における HIV 感染拡大防止への取り組みの一つとして、外国籍 MSM にとって受検ハードルが低くなるような取り組みが求められている。

E. 結論

先行研究で九州地方における HIV 診断率は低く（2017 年、診断率 70%以下）、HIV 未診断者数は約 800 名存在し、増加傾向にある事が指摘されている。診断率向上のため、行政によるエイズ対策の強化が切迫した課題であるが、検査件数などの「量」の増加だけで HIV 診断率の向上を目指すことは多大な労力を要するだけであり非現実的である。検査体制の「質」の向上を目指すために、地域特性など丁寧な現状分析を踏まえ、効果的・効率的な受検勧奨方法を模索し、長期的な戦略を持った検査体制の構築が必要である。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

表 1. 博多保健所定例検査における受検者の属性（年齢別・性別・性指向別）

	20 歳未満	20 歳台	30 歳台	40 歳台	50 歳台	60 歳以上	合計
男性	10	132	152	70	38	18	420
女性	15	172	86	29	8	3	313
その他	0	1	1	3	3	0	8
合計	25	305	239	102	49	21	741
(再掲) MSM	1	31	34	18	5	2	91
MSM 割合 (%)	4.0	10.2	14.2	17.6	10.2	9.5	12.3

表 2. 博多保健所定例検査における MSM 受検者の属性（年齢、居住地、国籍）

	20 歳未満	20 歳台	30 歳台	40 歳台	50 歳台	60 歳以上
福岡市内	1	27	29	18	2	1
福岡市外	0	4	5	0	3	1
海外	0	0	0	0	0	0
(再掲) 外国籍	0	0	0	0	0	0
合計	1	31	34	18	5	2

表 3. 博多保健所定例検査における MSM 受検者の属性（受検行動、性行動）

	HIV 検査 受検歴	左記 割合	不特定 または多数	左記 割合	アナルセックス時の コンドーム使用※	左記 割合※
有り	71	78.0	21	23.1	9	25.0
無し	18	19.8	66	72.5	13	36.1
回答なし	2	2.2	4	4.4	5	13.9
非該当		0.0		0.0	9	25.0
合計	91	100.0	91	100.0	36	100.0

※年度途中より集計開始のため参考値

表4. 検査モデルの比較

		博多保健所 2019年 定例検査	博多保健所 11月4日 特例検査	中央保健所 12月1日 特例検査
HIV 検査	受検者数	753	22	53
	HIV(+)	4 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (1.9%)
梅毒検査	受検者数	706	22	53
	RPR(+)	21 (3.0%)	0 (0.0%)	1 (1.9%)
	TP(+)	37 (5.2%)	1 (4.5%)	2 (3.8%)
MSM	受検者数	91	22	17
	50歳以上	7 (7.7%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)
	市外在住	13 (14.3%)	6 (27.3%)	4 (23.5%)
	外国籍	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)
	受検歴なし	18 (19.8%)	5 (22.7%)	5 (29.4%)
	不特定または多数	21 (23.1%)	3 (13.6%)	9 (52.9%)
	アレックス時における コンドーム使用無し	※ (36.1%)	11 (50.0%)	3 (17.6%)
	HIV 陽性率	3.3%	0.0%	5.9%
	TP 陽性率	15.9%	4.5%	11.8%
性風俗従事者	受検者数	26	0	1
外国籍	受検者数	11	0	3

※年度途中より集計開始のため参考値